



今回は「津平和のための戦争展」を通して戦争を語りつなぐ活動を行っている、同戦争展実行委員会事務局長の亀井浩さんに、実行委員会の活動内容や、活動を通して戦争と平和について語りつなぎたい思いをお聞きしました。



津平和のための戦争展
実行委員会事務局長
亀井 浩さん

「津平和のための戦争展(以下戦争展)」や実行委員会の活動について教えてください

実行委員会は1988年4月に市民の有志により発足し、戦争展を中心に市民に平和の大切さを訴える事業を行ってきました。戦争展は毎年夏に津リージョンプラザで開催(津市共催)しているもので、今年で34回目の開催となります。他に市内の戦争遺跡フィールドワークや、小中学校の平和学習の出前講座などの活動をしています。

戦争展ではどのような展示をしていますか

戦争展では、焼け野原になった津市街のパノラマ写真、戦災地図、焼夷弾の残骸など津の空襲を伝える資料、国民学校の写真や教科書、生活用品など、戦時中の学校や生活に関わる資料を展示しています。

昨年度は、平和を願い語りつなぐ展示として、久居農林高校放送部制作による映像作品「静かなる語り部」(2021年)、「つなぐ～記憶のバトン～」(2018年)を会場内で上映しました。



映像作品上映の様子

また、会場内に毎年「津市戦災爆死者名簿」を掲示しています。津市は空襲により戸籍まで焼失したため、戦災犠牲者の詳細が分かっていません。この「名簿」は、実行委員会に先立つ市民有志の会が地道に情報を集め、私たちが受け継いできているもので、現在1,400を超える人々が記載されています。

毎年会場で、この名簿をじっとご覧になる人や、そこに載っている名前の人について、ご自身の戦争

体験を交えながら語ってくださる人がいます。津の空襲では約2,500人が犠牲になったと推定されますが、その一人一人に家族や暮らしがあったはずで、展示を通じて、当時を生き、戦争により奪われた数々の命や、残され戦後を生きてきた市民の思いを想像していただけたらと思っています。

亀井さんが戦争展や実行委員会の活動で伝えていきたいことを教えてください

戦後75年以上が経ち、自分自身の戦争体験を語ることができる世代は少なくなりました。

今、私は「戦争と平和を語りつなぐたい」と強く思っています。戦争では、語ることができないほど過酷な現実や、記録されない悲惨な状況があったと思います。戦争の本質とは、そのように無残でむごいものではないのでしょうか。だからこそ、私たちは「語られることのない」「カメラで写されることのない」戦争の実相にまで思いを巡らし、今を生きる私たちの言葉で「戦争反対の思い」を語りつないでいきたいのです。

今年の戦争展のテーマは、「きりすてられたいのち、きりすてられるいのち」です。奪われていい命なんてないはずなのに、戦争では多くの命や暮らしが犠牲にされてきました。津の町に起こった空襲や、今まさに世界各地で起こっている紛争について語り合うことで、誰かが犠牲になることを見逃してしまっている自分や、誰かを切り捨ててしまっている自分がいなか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

第34回 津平和のための戦争展

～きりすてられたいのち、

きりすてられるいのち～

と き 8月6日(土)・7日(日) 9時30分～16時30分

ところ 津リージョンプラザ3階生活文化情報センター(展示室)